

新シリーズ 『ピアノ音楽の楽しみ方』 (7)

” 名曲の名演奏を聴き比べながら、ピアノ音楽の歴史を学ぼう！ ”

＜第七回＞ ピアノの詩人ショパンによる 広大かつ多様な魅力溢れるピアノ・ワールドの探求 — ショパン・シリーズ その2 —

前回は19世紀ロマン派音楽のなかでもユニークな独自性を主張するショパン音楽において バロック音楽や古典派の影響を検証したが、今回はショパン自身が独自に創造したり発展させたジャンルでのピアノ曲について検討してみます。

第一は練習曲に代表されるような それまでは単にピアノの練習用にすぎなかった教材の芸術化された分野、第二はポーランド周辺に伝わる民族舞曲、例えばマズルカ、ポロネーズ、ワルツなどを素材に魅力豊かに変貌させた分野、第三はショパン自身によって独自に創造されたバラード、スケルツォ、舟歌、子守唄などの分野である。彼は短い生涯にこれらの多岐に亘る分野を自在に駆使しながら全く他の追随を許さない独自のピアノ音楽によるミクロコスモスを築き上げたのである。

練習曲では、ショパン・コンクール最大の覇者ポーリーニの超名演を中心に聴きたいし、第2の分野では高雅なリパッティのワルツ集との比較になるであろう。そして第3の分野では舟歌、子守唄、バラードの幾つかをコルトーやギーゼキングほかレジェンドの名演で比較・検討しながら ショパン音楽の魅力の神髄を改めて味わってみたいと思います。

どうか お楽しみに！



日 時 / 5月8日(日) 13:30~15:45

場 所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 高橋 敏郎 シリーズ 全10回(予定)

参加自由・入場無料

問合わせ / 04-7185-1961 脇田 <http://www.aafc.jp/>